



BEENOS (東 1:3328)

バリュエーション判断
前回強気 ⇒ **強気**
(2018.11.13)
目標株価 2400 円継続

決算説明会:2019年2月5日

担当:岸 和夫

【連結】	(百万円、%、円:Q/四半期、会/会社計画、予/エース経済研予想)									
決算期	売上高	伸率	営業利益	伸率	経常利益	伸率	当期利益	伸率	EPS	配当
2019/9 1Q	5,309	-1	-314	-	-288	-	-200	-	-	0.00
2017/9	20,711	8	1,507	26	1,552	28	1,011	8	82.4	記18.00
2018/9	22,768	10	1,533	2	1,728	11	922	-9	75.6	13.00
2019/9 会	未公表									13.00
2019/9 予	24,500	8	1,800	17	1,950	13	1,040	13	85.8	13~

【セグメント情報】	19/9期1Q	【PER】	【財務指標】	19/9期1Q
バリューサイクル	63%	17/9 13.3	BPS	635.1円 株価(2/6終値) 1,095円
リテールライセンス	15%	18/9 14.5	純資産	9,188百万円 売買単位 100株
クロスボーダー	22%	19/9予 12.8	総資産	16,253百万円 発行株数 12,332千株
インキュベーション	0%		時価総額	13,504百万円 予想PBR 1.7倍

注: EPS、BPSは自己株式を除いて計算。

<注目ポイント>

1 Eコマース事業に加え、インキュベーション(投資育成)事業を展開

主力のEコマース事業は、クロスボーダー部門(FROM JAPANの海外転送・代理購入事業、TO JAPANのグローバルショッピング事業では海外の商品をオークションで購入する「セカイモン」を運営)、バリューサイクル部門(東 1:3545 デファクトスタンダードがブランド品宅配買取事業の通販サイト「Brandear(ブランディア)」を運営。18/3月に(株)帝国酒販(現 JOYLAB(株))を買収し、酒類買取販売業に進出)、リテールライセンス部門(商品プロデュース・ライセンス事業&ネットショッピング事業)で構成。

2 19/9期1Qの赤字は金額も含め想定内(会社見解)

19/9期1Qの営業赤字の要因は、①バリューサイクル部門(デファクトスタンダード)の積極的な広告宣伝費の投入、高価格帯商品へのシフトによる原価率の悪化、②TO JAPAN事業の基幹システムのリプレイス費用、③リテールライセンス部門が前期1Qにイベントが集中したことの反動など。会社側は、赤字幅も含めて想定内の結果としている。

3 前期に引き続き19/9期も会社計画は未公表、

流通総額500億円(前期比8%増)の公表計画に変更なし

4 インキュベーション事業は、インド・東南アジア有望企業に投資。

18/9期末含み益は約131億円(同社算定)

海外はインドを中心に、インドネシアやバングラディッシュなどアジア新興国の成長企業への投資を継続。今後、インキュベーション事業とEコマース事業のシナジーや、インバウンド関連投資先間のシナジー効果の創出を追求。18/12月に、インドネシア最大のマーケットプレイス「tokopedia」(12/4月に同社出資)が、ソフトバンク、アリババグループなどから11億USドル調達を発表。19/3月末の含み益に期待して下さい(直井社長談)。

強気の投資判断、目標株価2400円を継続

18/9期1Qの赤字は、一時的な要因によるところが大きく、2Q以降の収益は改善されてくる見通しであり、1Qだけの決算で売るのは早計であろう。インキュベーション事業は、単に売却益を計上するだけでなく、今後のビジネス拡大のツールでもあり、より高い評価を与えるべきと考えている。この水準から下押し場面は、積極買いで臨みたい。

《アナリストによる宣言》

私、岸 和夫は本調査資料に表明された見解が、対象企業と証券に対する私個人の見解を正確に反映していることをここに証明します。

また、私は本調査資料で特定の見解を表明することに対する直接的または間接的な報酬は、過去、現在共に得ておらず、将来においても得ないことを証明します。

《利益相反に関する開示事項》

- エース証券株式会社(以下、エース証券)及びグループ会社は、本資料に掲載された企業の売買あるいは当企業に対し、引受、その他のサービスを提供する場合があります。
- 株式会社エース経済研究所(以下、ARI)は、エース証券との契約に基づき、エース証券への資料提供を一定期間、継続的に行うことに対し包括的な対価をエース証券から得ておりますが、本資料に対して個別に対価を得ているものではありません。
また、銘柄選定も ARI 独自の判断で行っており、エース証券を含む第三者からの銘柄の指定は一切受けておりません。
- 執筆担当者、ARI と本資料の対象企業との間には、重大な利益相反の関係はありません。

金融商品取引法に基づく表示事項

■本資料をお客様にご提供する金融商品取引業者名等

商号等： エース証券株式会社 金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第 6 号
 加入協会： 日本証券業協会
 指定紛争解決機関： 特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター

■手数料等及びリスクについて

●株式の売買には、約定代金に対して最大 1.242%の手数料(約定代金が 100 万円以下の場合、最低手数料 2,700 円)(税込み)が必要となります。●株式は、株価の変動により、損失を生じるおそれがあります。●上場有価証券等書面の内容をよくお読みください。●外国株式は、為替相場の変動等により、損失を生じるおそれがあります。●非上場債券(国債、地方債、政府保証債、社債)を当社が相手方となりお買い付けいただく場合は、購入対価のみお支払いいただきます。●債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、損失を生じるおそれがあります。●外国債券は、為替相場の変動等により損失を生じるおそれがあります。●商品毎(投信・外債含む)に手数料等及びリスクは異なりますので、上場有価証券等書面、当該商品等の契約締結前交付書面や目論見書またはお客様向け資料をよくお読みください。

エース証券及び ARI 免責事項等

- 当資料により株式・債券・その他金融商品(投信・外債含む)等の勧誘を行うことがあります。本資料で言及した銘柄や投資戦略は、投資に関するご経験や知識、財産の状況及び投資目的が異なるすべてのお客様に、一律に適合するとは限りません。また、株式・債券等の有価証券の投資には、「手数料等及びリスクについて」に記載のとおり、損失を生じるおそれがあります。投資判断の最終決定は、お客様ご自身の判断で行っていただきますようお願い致します。
- 本資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて ARI が作成し、エース証券(以下、当社)がお客様にご提供いたしますが、当社及び ARI は、ARI が基にした情報及びそれに基づく要約または見解の正確性、完全性、適時性を保証するものではありません。本資料に記載された内容は、資料作成時点におけるものであり、予告なく変更することがあります。
- 本資料を利用した結果、お客様に何らかの損害が発生したとしても、当社及び ARI は何らの責任を負うものではありません。
- ※ (著作権等)・・・本資料に関する一切の知的財産権は、原則として ARI に帰属します。電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、本資料の無断転用、複製等を行わないようお願い致します。

本資料のご利用にあたり、お客様にご確認いただきたい事項を、本資料の最終ページに記載致しました。ご確認の程、お願い致します。